

アイヌ民族文化財団と包括協定

白老町は民族共生象徴空間（ウポポイ）を運営する公益財団法人アイヌ民族文化財団と包括連携に関する協定を締結しました。アイヌ文化の振興やウポポイの誘客促進、人材育成、まちづくりのさらなる推進などを目指します。

締結式では大塩英男町長、同財団の常本照樹理事長が協定書にサイン。大塩町長は「いっしょに連携強化と相互の発展を図りたい」と述べ、常本理事長も「皆さんの身近な施設になりたい。誘客に一層の協力を」とあいさつしました。

締結により、令和6年度は町内の高校生以上の年間パスポート配布事業のほか、今年1月にもウポポイで実施した二十歳を祝う会の開催などを想定しています。
(3月25日)



地域おこし協力隊 川下さん（水産）と滝田さん（農畜産）に委嘱状

白老町地域おこし協力隊に着任した川下正己さん（66）＝新十津川町出身＝、滝田圭さん（46）＝函館市出身＝に大塩英男町長から委嘱状が交付されました。任期は3年です。

北海道栽培漁業振興公社の勤務経験がある川下さんは水産業、商品のブランディングなどを行う会社を経営する滝田さんは農畜産業振興を担当。養殖魚種の飼育データの収集・分析、白老牛に関わる情報発信、PR事業などの展開に携わります。

川下さんは「漁業者の皆さんにいい意味の刺激を与え、まちおこしにつながるような成果を挙げていきたい」、滝田さんは「われわれ外の人間が白老町の魅力を再発見していきたい」と話していました。

白老町は2016年度から協力隊制度を運用しており、これまで21人が活動してきました。現在は3人が活動しており、隊員は5人になります。
(4月8日)



川下さん（左）と滝田さん

宇梶さん 文化賞受賞記念祝賀会 古布絵を寄贈

アイヌカの代表理事を務め、北海道の「北海道文化賞」、アイヌ民族文化財団の「アイヌ文化賞」を受賞した宇梶静江さん（91）の受賞記念祝賀会が白老生活館で開かれました。

祝賀会には80人が出席。大塩英男町長は「これからもお元気でご活躍を。まちの発展のためにご指導を」とあいさつしました。

2021年から白老町に移住、アイヌ民族の文化普及などに尽力している宇梶さんはアイヌの素晴らしい文化、先祖が残してくれた神謡集、哲学、大地への感謝などを伝えて熱く受賞の喜びを語り、町ヘシマフクロウの古布絵を寄贈しました。
(4月6日)

